

バリアフリー整備・徴収計画

鉄軌道事業者名	京成電鉄株式会社
---------	----------

整備方針	
全期間	・ホームドアを15駅43番線に整備 ・エレベーター・スロープの整備による駅の段差解消およびバリアフリートイレの整備
2021～2025年度	・ホームドアを1駅4番線に整備 ・エレベーター・スロープの整備による駅の段差解消およびバリアフリートイレの整備
2026～2035年度	・ホームドアを14駅39番線に整備 ・エレベーター・スロープの整備による駅の段差解消およびバリアフリートイレの整備

料金額				
券種	定期外		定期券	
	普通券 (磁気券)	普通券 (IC)	通勤定期券	通学定期券
設定額(円)	10	10	※1	—
年間徴収額 (百万円)	972(※2)		951	—
料金徴収 対象駅	京成本線、押上線、金町線、千葉線、千原線、東成田線(64駅) ※成田空港線、松戸線を除く			
備考	※1：1ヵ月600円、3ヵ月1,710円、6ヵ月3,240円 ※2：上記券種のほか、各種回数券、団体乗車券、貸切乗車券、各種特殊割引乗車券、 企画乗車券からの徴収額を含む。 鉄道駅バリアフリー料金を加算した運賃に関する詳細は、別途周知する。			

年間徴収額	1,923	百万円
徴収期間	12	年間(2024.3～2036.3) ※2036年4月以降の継続について検討予定
総徴収額	23,076	百万円
総整備費	36,676	百万円
	2025年度までの計画：6,793百万円 2026～2035年度の計画：29,883百万円 ※2036年度以降の継続について検討予定	

バリアフリー整備・徴収計画（計画期間：2021.4～2026.3）

整備内容			
(1) 設置・改良費（附帯費用含む）			
設備名	整備数		整備費
ホームドア（段差隙間縮小に資する設備を含む）	1 駅	4 番線	2,137 百万円※1
エレベーター	3 駅	5 基	390 百万円
エスカレーター	1 駅	2 基	101 百万円
スロープ	1 駅	1 ヶ所	42 百万円
バリアフリースイレ	2 駅	2 ヶ所	46 百万円
その他	各 駅 ※2		185 百万円
備考	※1：整備数はホームドア整備完了分のみ。整備費には既存ホームドアの改良費及び2026年度以降ホームドア整備駅の設計・ホーム補強等を含む。 ※2：誘導案内設備16駅（盲導鈴、触知図案内板、案内サインなど）、ベンチ5駅、運行情報提供設備（行先表示器含む）3駅、音声案内装置（エスカレーター）17駅など。		
(2) 更新費（附帯費用含む）			
① 設備更新			
設備名	整備数		整備費
エレベーター	3 駅	3 基	116 百万円※3
エスカレーター	8 駅	21 基	1,259 百万円
その他	各 駅 ※4		998 百万円
備考	※3：2 駅 1 基の更新のほか、エレベーター内の一部機器更新を含む。 ※4：誘導案内設備33駅（盲導鈴、案内サインなど）、渡り板29駅、運行情報提供設備14駅（行先表示器含む）、列車非常停止装置11駅など。		
② 車両更新			
路線名	整備数		整備費
—	— 編成	— 両	— 百万円
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用（駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）			
維持管理費（附帯費用含む）	1,277 百万円		
収受システム改修費	8 百万円		
その他費用 （駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）	234 百万円		
備考			

※設備欄において「その他」を選択した場合には、備考欄に当該設備名を記載すること。

計画期間内の整備費（（1）～（3）の合計）	6,793 百万円
-----------------------	-----------

計画期間内の料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数		
ホームドア設置番線数	4	番線
段差解消駅数	一経路確保駅	2 駅
	二経路以上確保駅	1 駅

バリアフリー整備・徴収計画（計画期間：2026.4～2036.3）

整備内容			
(1) 設置・改良費（附帯費用含む）			
設備名	整備数		整備費
ホームドア（段差隙間縮小に資する設備を含む）	14 駅	39 番線	15,232 百万円
エレベーター	2 駅	5 基	563 百万円
スロープ	1 駅	3 ヶ所	180 百万円
バリアフリートイレ	3 駅	3 カ所	90 百万円
その他	各駅 ※ 1		139 百万円
備考	※1：誘導案内設備10駅（盲導鈴、触知図案内板、案内サインなど）、ベンチ15駅、音声案内装置（エスカレーター）7駅など。		
(2) 更新費（附帯費用含む）			
① 設備更新			
設備名	整備数		整備費
エレベーター	17 駅	34 基	1,768 百万円
エスカレーター	18 駅	43 基	2,775 百万円
その他	各駅 ※ 2		1,851 百万円
備考	※2：誘導案内設備49駅（盲導鈴、案内サインなど）、渡り板50駅、運行情報提供設備18駅（行先表示器含む）、列車非常停止装置30駅など。		
② 車両更新			
路線名	整備数		整備費
-	- 編成	- 両	- 百万円
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用（駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）			
維持管理費	7,045 百万円		
収受システム改修費	- 百万円		
その他費用 （駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）	240 百万円		
備考	2036年度以降の本制度活用の継続について検討予定のため、本制度終了時に必要となる収受システム改修費及びその他費用について、本様式には計上していない。		

※設備欄において「その他」を選択した場合には、備考欄に当該設備名を記載すること。

計画期間内の整備費（（1）～（3）の合計）	29,883 百万円
-----------------------	------------

計画期間内の料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数		
ホームドア設置番線数	39	番線
段差解消駅数	一経路確保駅	3 駅
	二経路以上確保駅	- 駅